



JR九州グループの会社説明会

2025年2月21日

九州旅客鉄道株式会社（証券コード：9142）



KYUSHU RAILWAY COMPANY



本日お伝えしたいこと



JR九州グループ について

- JR九州グループのあゆみ
- JR九州グループの事業構成

JR九州の 経営戦略

- JR九州グループの経営計画の体系
- 本中期経営計画の重点戦略
- 本中期経営計画の実行を支える人づくり・基盤づくり
- JR九州グループにおけるESGの取り組み

決算ハイライト ・ 株主還元

- 2025年3月期第3四半期連結決算ハイライト
- 2025年3月期通期連結業績予想
- 株主還元方針
- 株主優待制度



JR九州グループについて



KYUSHU RAILWAY COMPANY

企業プロフィール（2024年3月31日現在）



- 会社名称 九州旅客鉄道株式会社
- 設立 1987年4月1日
- 従業員数 単体7,576名(連結14,677名)※2024年4月1日現在
- 発行済株式総数 157,301,600株 （単元株式数：100株）
- 上場市場名 東京証券取引所プライム市場、福岡証券取引所
- 株主数 168,678名
- 子会社・関連会社
 - 子会社 63社（うち 連結子会社49社）
 - 関連会社 7社（うち持分法適用関連会社5社）



JR九州グループのあゆみ



KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループのあゆみ



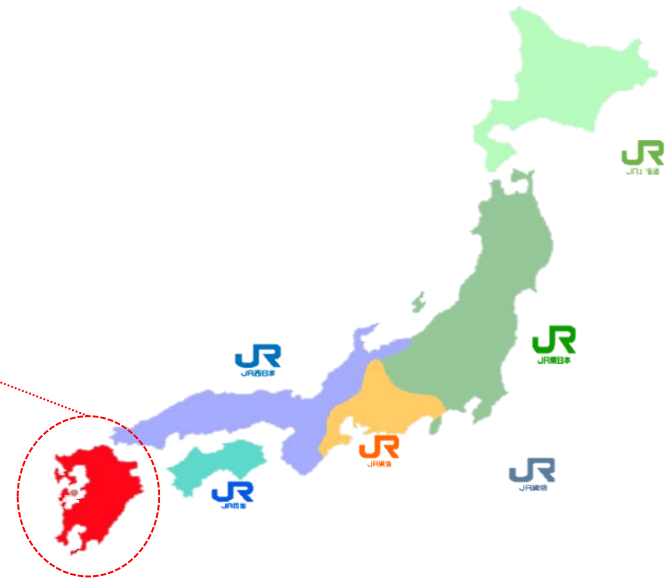
「日本国有鉄道」の分割民営化によりJR九州が発足

■ あらゆる事業に挑戦する精神

「鉄道事業だけに依存してはいけない」という思いで、
様々な事業に挑戦し成長を実現してきた



JR
JR九州
1987



JR九州グループのあゆみ



コーポレートカラーは「赤」



南の明るい太陽の国には、燃える熱意の色「赤」がふさわしく、
全力で明るくスタートダッシュをきる新会社の意欲的な姿勢を表現

JR九州グループのあゆみ



地域を元気にするという思いのもと**鉄道事業**と**関連事業**の両輪であらゆる価値を創出

●鉄道事業



(D&S列車)

- ・ 1989年の特急「ゆふいんの森」の運行を皮切りに、現在では、10本のD&S列車（デザイン&ストーリー列車（観光列車））を運行
- ・ 2024年4月に「かんぱち・いちろく」がデビュー



(ななつ星 in 九州)

- ・ 2013年に日本で初めてのクルーズトレインとして誕生
- ・ 米国出版大手コンデナスト社の旅行誌の読者投票では「世界の豪華列車」部門で3年連続世界トップに選ばれる



(九州新幹線・西九州新幹線)

- ・ 2011年に九州新幹線（博多～鹿児島中央）が全線開業し、JR博多シティとの相乗効果で当社の成長はさらに加速
- ・ 2022年に西九州新幹線が開業を果たし、西九州エリアの活性化を後押し

JR九州グループのあゆみ



地域を元気にするという思いのもと**鉄道事業**と**関連事業**の両輪であらゆる価値を創出

●関連事業



（不動産・ホテル）

- ・ 1989年に初の分譲マンション販売を開始
- ・ 1992年に「ホテルブラスサム福岡」を開業
現在、九州・沖縄、京都、東京、タイにて、20のホテルを展開
- ・ 1997年に初の駅ビル事業であるアミュプラザ小倉が開業
現在、九州の県庁所在地を中心に駅ビルを7箇所で開催
- ・ 2021年に物流事業へ参入
現在、物流不動産を4件取得、3件の開発に着手

（流通・外食）

- ・ 2002年には、飲食店「うまや」を東京・赤坂に開業する
など、東京、九州で外食事業も展開



JR九州グループのあゆみ(「ななつ星 in 九州」運行10周年)





JR九州グループの主な事業構成

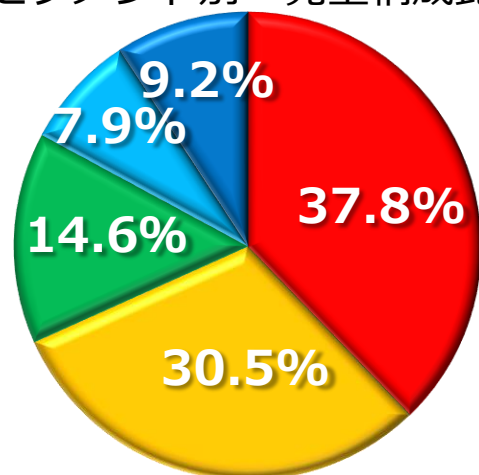


KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループの事業構成

- JR九州グループは、九州全域に鉄道網を有する鉄道をコア事業とする企業グループ
- 駅ビルやホテル、マンション、建設、流通や外食事業など、鉄道事業との相乗効果が高い領域を中心にその事業領域を拡大
- 鉄道以外の事業による売上が約6割となっており、事業の多角化が進んでいる

【セグメント別 売上構成比（2024年3月期）】



運輸サービス



不動産・ホテル



流通・外食



建設



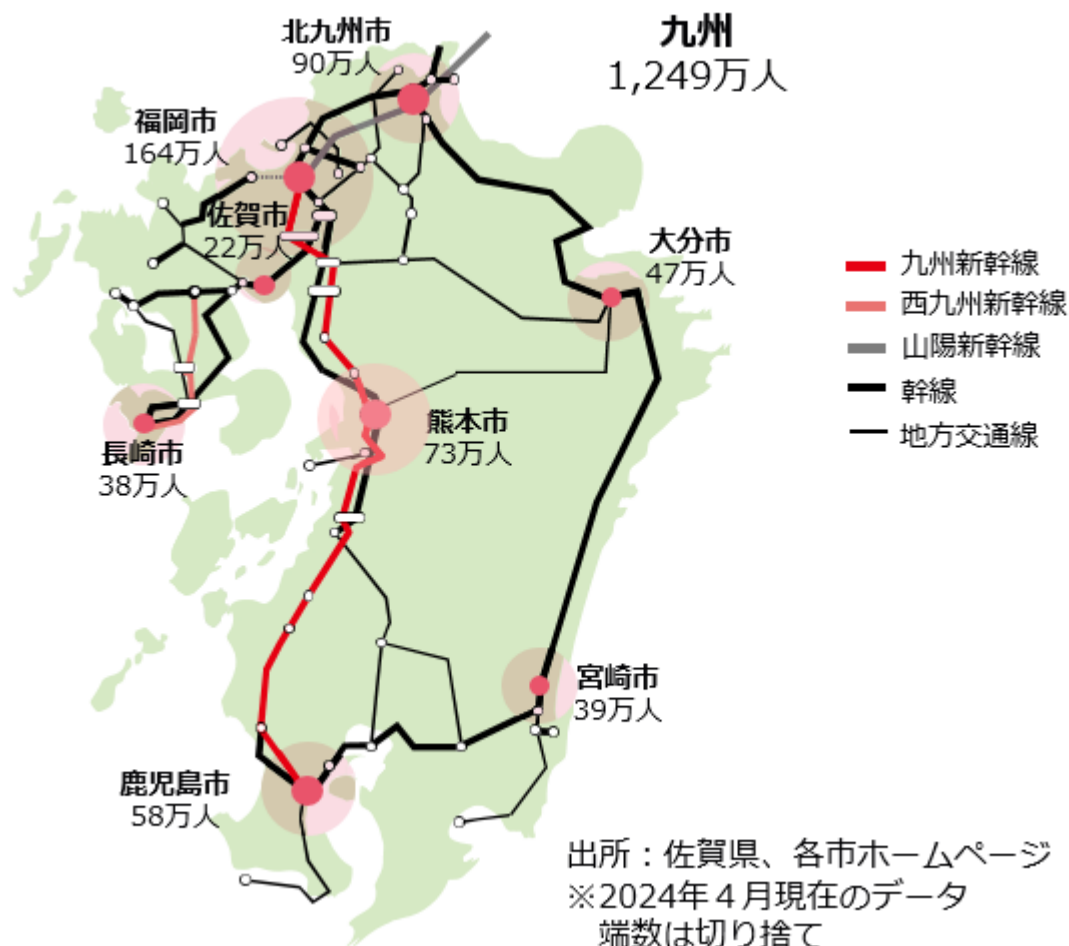
ビジネスサービス



JR九州グループの事業構成 | 全国屈指の経済基盤を有する九州



- 九州は『日本の1割経済』という位置付け（域内総生産、総人口、総面積、事業所数等）
- 福岡市及びその周辺は人口増加が見込まれる成長性の高い都市
- 40万人以上の人口を有する都市が九州全体に分散
- 九州は人口減少が進んでいるものの、強固な経済基盤を有している





JR九州の経営戦略



KYUSHU RAILWAY COMPANY



JR九州グループの経営計画の体系



KYUSHU RAILWAY COMPANY

価値創造ストーリー



価値創造ストーリー

「あるべき姿」には、私たちが、九州の元気をつくっていく、さらに、九州から日本、そしてアジアを舞台に元気をつくっていくという思いが込められています。

「誠実」、「成長と進化」、「地域を元気に」の3つの「おこない」は、私たち一人ひとりが常に立ち返るべき拠り所として大切にしている行動指針です。

当社グループは、「あるべき姿」に向けて「おこない」のもとに事業を実践することで、企業価値向上と持続可能な社会の実現を目指していきます。

あるべき姿

安全とサービスを基盤として
九州、日本、そしてアジアの元気をつくる
企業グループ

価値創造プロセス

JR九州グループが
大切にしている
3つのおこない

「誠実」
「成長と進化」
「地域を元気に」

**JR九州グループ
中期経営計画**
2022-2024

2030年 長期ビジョン

安全・安心なモビリティサービスを軸に
地域の特性を活かしたまちづくりを通じて
九州の持続的な発展に貢献する

2030年長期ビジョン実現方針

- 方針① 価値観の変化を捉えた“豊かな生活を実現する”まちづくり
- 方針② 九州の持続的な発展に貢献する領域の拡大

マテリアリティ

JR九州グループが常に考えるべきこと

- E** 脱炭素社会の実現
- S** すべての事業の基盤となる安全とサービス
- S** 持続可能なまちづくり
- S** 価値創造の源泉である人づくり
- G** 健全な企業運営



2030年長期ビジョン実現方針

2030年長期ビジョン(前中期経営計画から継続)

安全・安心なモビリティサービスを軸に地域の特性を活かしたまちづくりを通じて九州の持続的な発展に貢献する

◆2030年長期ビジョン実現方針

方針①

価値観の変化を捉えた“豊かな生活を実現する”まちづくり

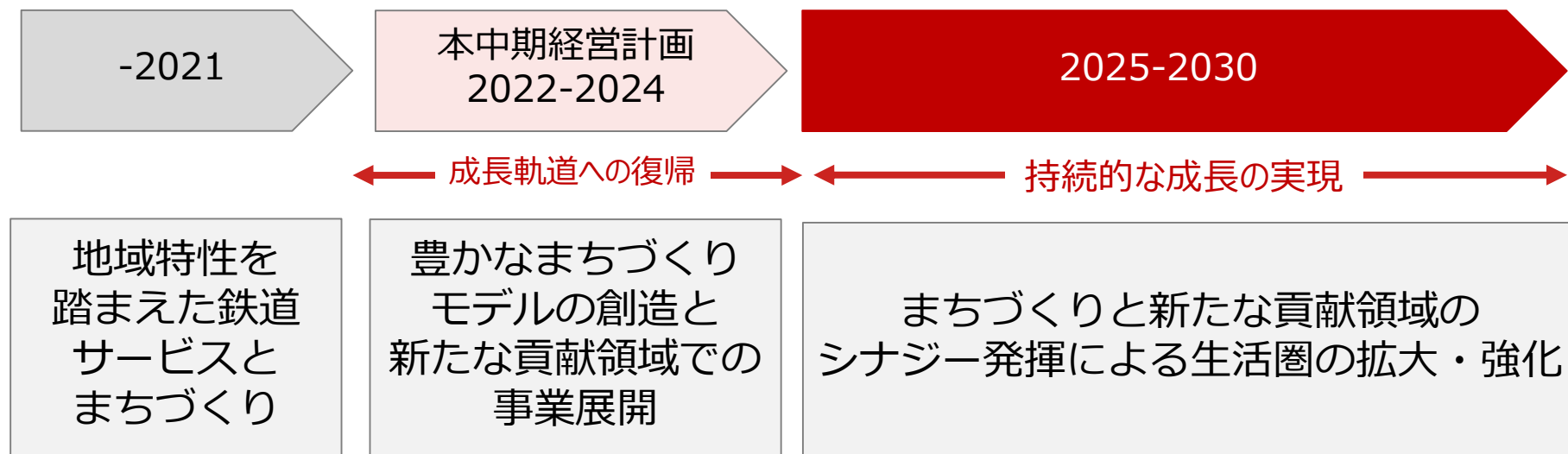
方針②

九州の持続的な発展に貢献する領域の拡大

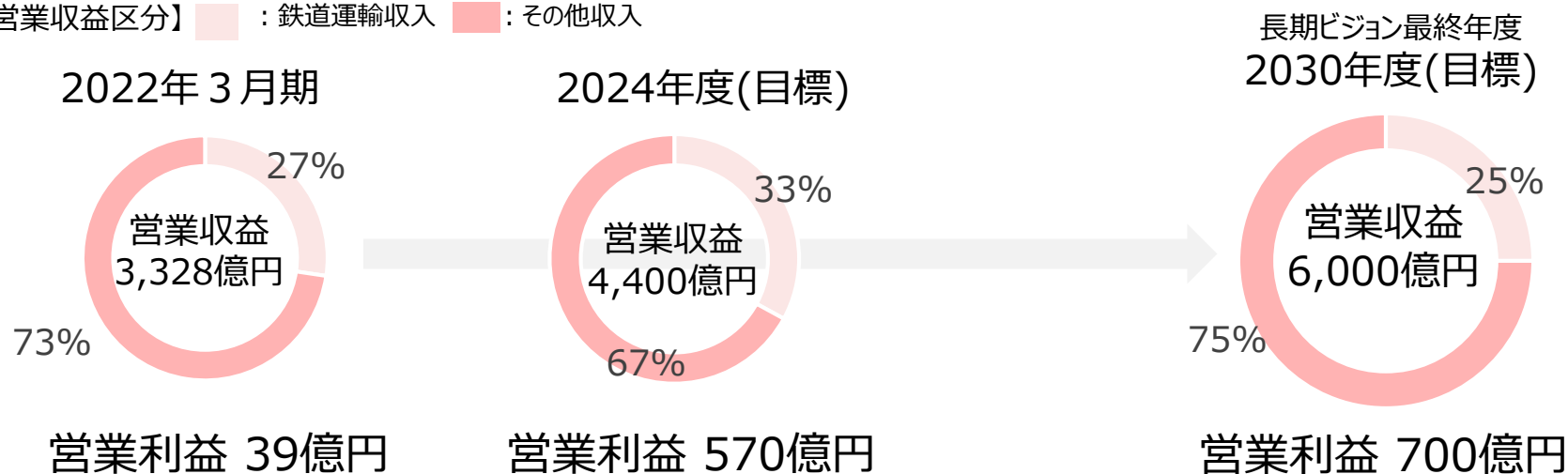
JR九州グループの経営計画の体系



長期ビジョン実現に向けたステップ



【営業収益区分】 : 鉄道運輸収入 : その他収入





本中期経営計画の重点戦略



KYUSHU RAILWAY COMPANY



3つの重点戦略

- 重点戦略① 事業構造改革の完遂
- 重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造
- 重点戦略③ 新たな貢献領域での事業展開

- 昨年3月、香椎線にて「GOA2.5※自動運転」を国内で初めて開始。
- 既存設備を活用することで導入コストを抑えながら、安全性の向上をはじめ、今後懸念される「なり手不足解消」、「養成費コスト削減」につなげる。



※GOA2.5 車両前頭に運転士以外の係員（自動運転乗務員）乗務し、運行すること

GOA : Grades of Automation （自動運転レベル）の略

重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 西九州エリアのまちづくり

西九州新幹線開業を起爆剤とした西九州エリアの開発を推進することで、新幹線開業効果の最大化を目指す。



B 長崎マリオットホテル開業

- 2024年1月16日開業
- 客室数207室（うちスイート28室）



B アミュプラザ長崎本館リニューアル

- 2024年3月1日リニューアル
- 28店舗、長崎最大級「食のフロア」



2022年1月	2022年3月	2022年9月	2023年4月	2023年11月	2024年1月	2024年3月
A 茜さす 肥前浜宿 古民家宿泊施設	B かもめ市場 お土産・飲食等	西九州新幹線	C 佐賀駅高架下 リニューアル	B アミュプラザ長崎新館 D 嬉野八十八	B 長崎マリオット ホテル	B アミュプラザ長崎 本館リニューアル
						



重点戦略③ 新たな貢献領域での事業展開 | M&Aの推進

- 収益機会の獲得や事業領域の拡大を目指し、既存事業とのシナジー効果の最大化や九州の観光推進につながるM&Aをこれまで実施してきた。
- 最近では、BtoB事業への挑戦と、地域の雇用維持やブランド価値の維持向上を図っている。

M&AによりJR九州グループ入りした会社

●2016年以降、BtoB領域では11社、BtoC領域では5社の会社をM&A

(BtoB領域)

(BtoC領域)

・キャタピラー九州

・CKレンタル

キャタピラー・ジャパン合同会社の九州地区特約販売店であり、建設機会・道路機会等の販売、レンタル等が主な事業



・プレミアムロジックス

ピアノ等の大型楽器、複合機や医療機器等の精密機械を中心とした重量物の運送等が主な事業



・フジバンビ

「黒糖ドーナツ棒」をはじめとした菓子の製造販売等が主な事業



・おおやま夢工房

九州有数の梅の郷 大分県日田市大山町の温泉宿「奥日田温泉 うめひびき」の運営、梅酒をはじめとした加工品の製造・販売等が主な事業





本中期経営計画の実行を支える 人づくり・基盤づくり

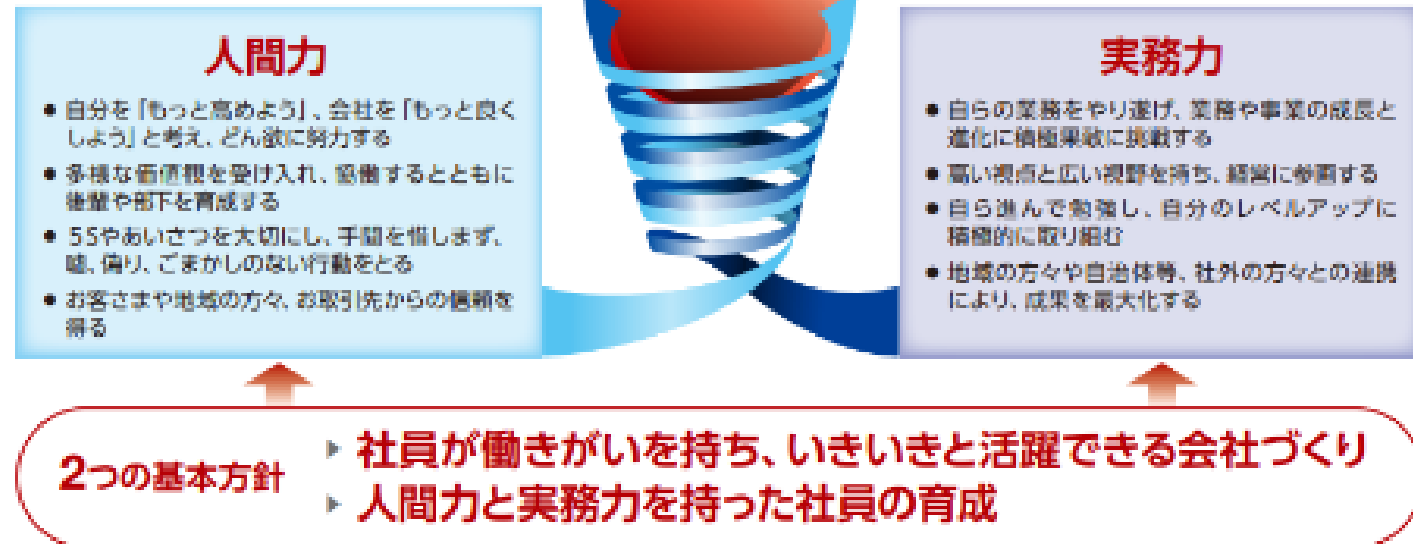


KYUSHU RAILWAY COMPANY

本中期経営計画の実行を支える人づくり・基盤づくり

JR九州の人材戦略

「JR九州グループ中期経営計画2022-2024」
「2030年長期ビジョン」「あるべき姿」の実現に向け、基盤となる「人づくり」を推進するため、新しい人材戦略を策定



人材戦略の4つの柱

意欲と能力のある社員への挑戦・成長の機会の提供と支援

多様な価値観や能力を持つ社員の活躍による新たな価値の創造

努力と成果に応じたメリハリのある評価と報酬

ライフプランに合わせた柔軟な働き方が選択できる環境整備と健康経営の推進

本中期経営計画の実行を支える人づくり・基盤づくり



●JR九州グループDX戦略2022-2024

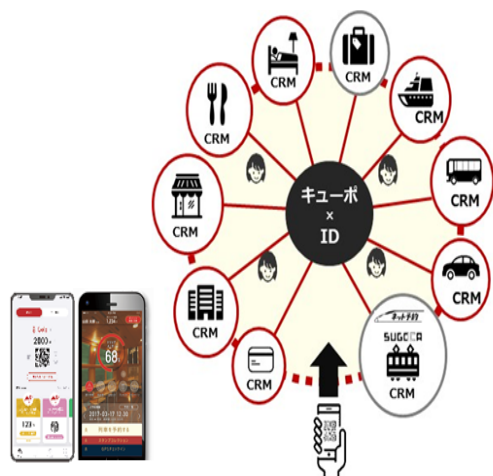
DX推進

DX: デジタルトランスフォーメーション

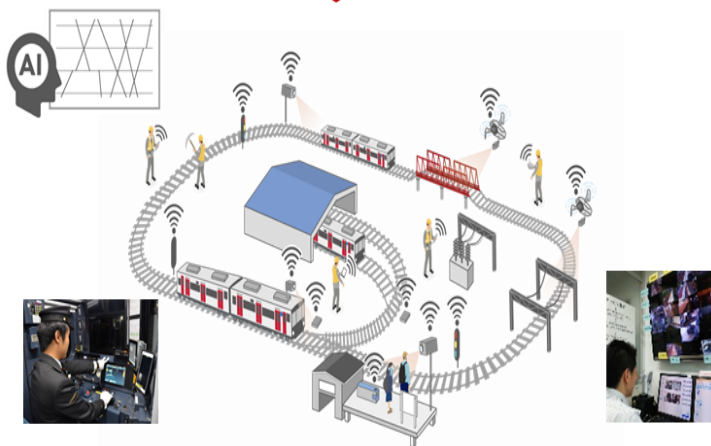
デジタル技術を発展させ、業務の効率化だけでなく人々の生活をより良いものへと変革すること

デジタル推進体制の構築

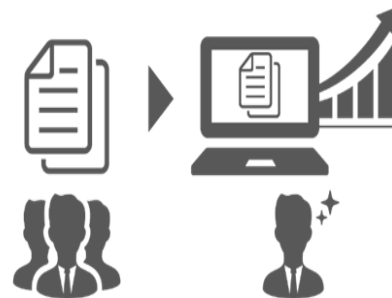
デジタル基盤の整備



お客さま体験価値向上



オペレーション・メンテナンス改革



働き方改革・生産性向上

・ 上記の実現に向けて、デジタル技術の活用やデジタル人材の育成等を通じた環境整備を行い、デジタル推進体制の構築に取り組む



JR九州グループにおけるESGの取り組み



KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループにおけるESGの取り組み



E：2025年2月、これまで取り組んできた気候変動に加え、資源循環の促進や生物多様性の保護といった環境課題に対して、統合的にアプローチするビジョンや取組をまとめた「JR九州グループ環境ビジョン2050」を策定

JR九州グループ環境ビジョン2050

**地域・お客さま・事業パートナーと共創する、
自然と共生した未来**

マテリアリティ

相互連動による
統合的なアプローチで課題を解決



脱炭素社会の実現

循環型社会の実現

自然共生社会の実現

共創する未来

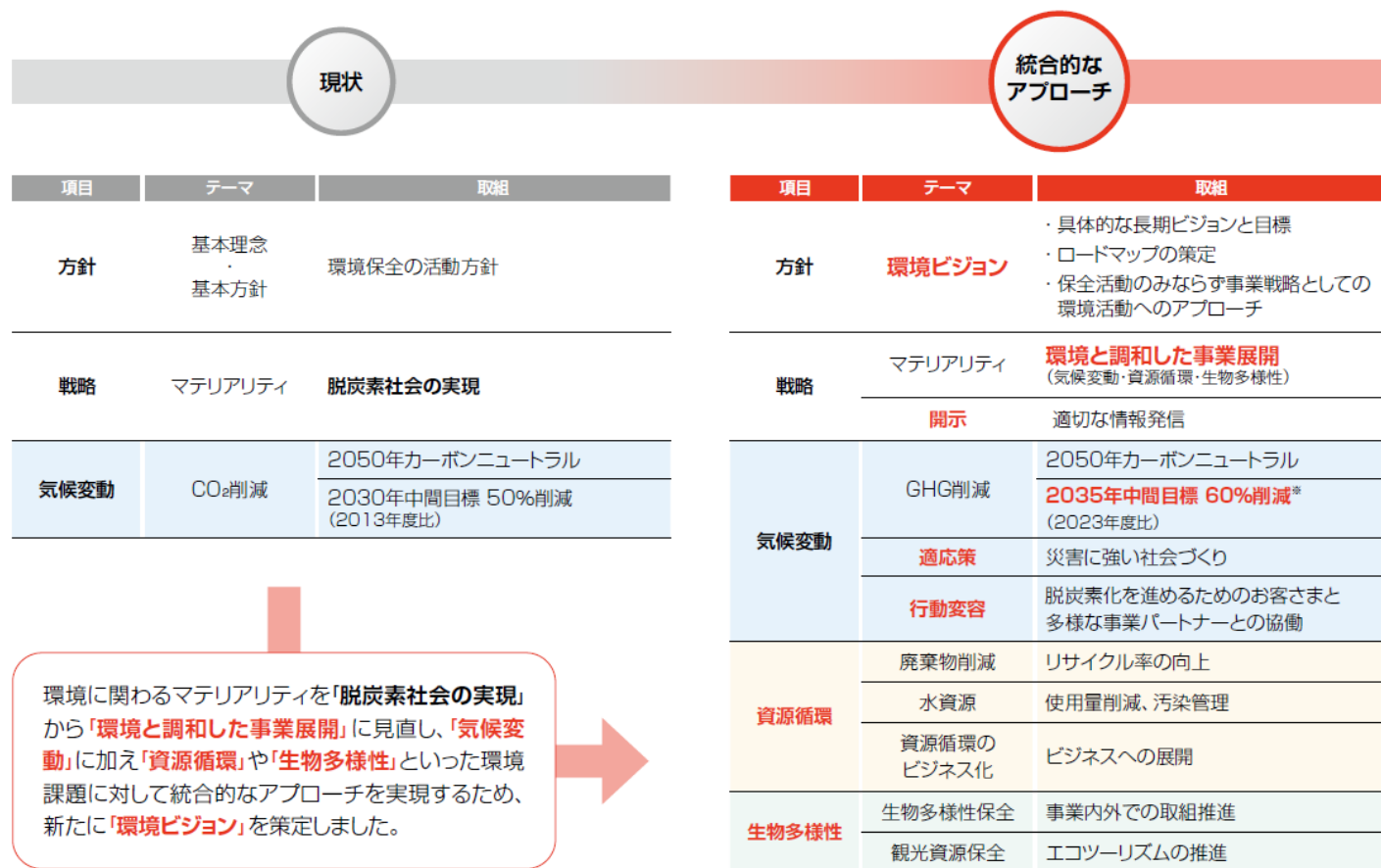
事業を通じて培ったネットワークを活かして
人とまちをつなぎ、
JR九州グループに関わるすべての人と手を取り合い、
地域や社会の課題を共に解決しながら、
自然豊かな環境づくりに挑戦します。

つながりを創出するモビリティサービスや
地域の特性を活かしたまちづくりを通じて、
誰もが住みやすく・訪れたいくなる、
自然と共生した未来を創造します。

JR九州グループにおけるESGの取り組み

E:「気候変動」ではGHG削減について新たな目標を設定。
また、「資源循環」や「生物多様性」に対してもアプローチし、
環境負荷の低減と地域社会との共生を目指す。

JR九州グループの環境への取組の発展と統合的なアプローチ



※ GHG排出量削減の中間目標を単体からグループに対象を拡大

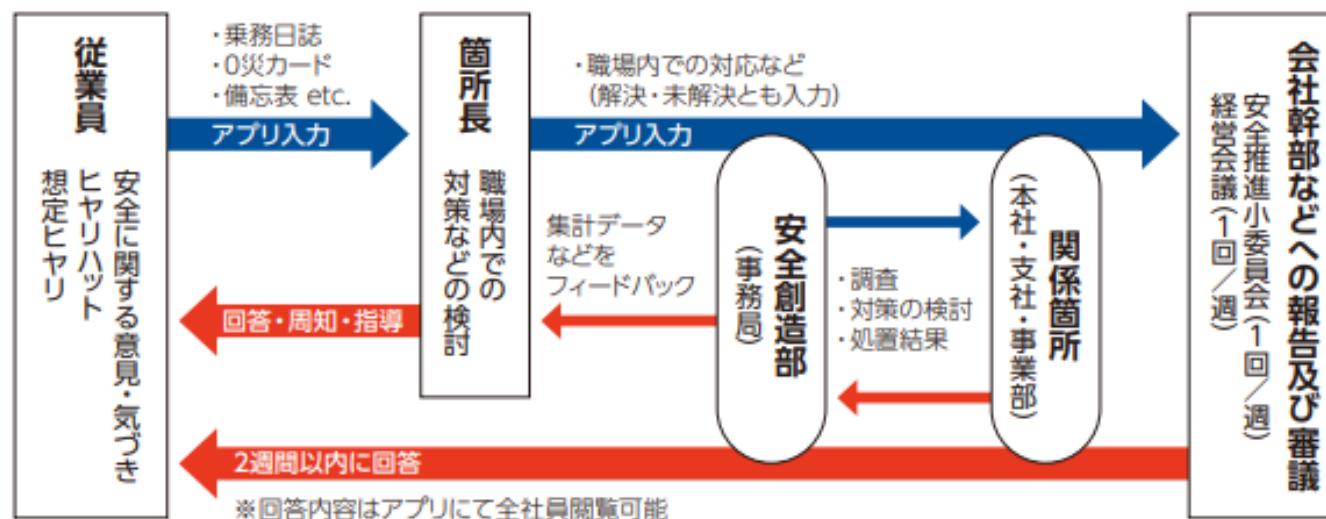
JR九州グループにおけるESGの取り組み

S：すべての事業の基盤となる安全とサービス

安全に関する基本的な考え方

安全はあるものではなく、つくりあげていくもの

安全に関する社員の声



安全に関する社員の声（改善事例）



長崎駅の柵内ホーム端の立ち入り禁止エリアを越えて写真撮影をされるお客さまにヒヤリとした。



長崎駅に注意喚起シートを貼付け、ポールを設置し注意喚起を行うことで安全を確保

JR九州グループにおけるESGの取り組み

S：すべての事業の基盤となる安全とサービス

安全を支える人材の育成（安全創造館）

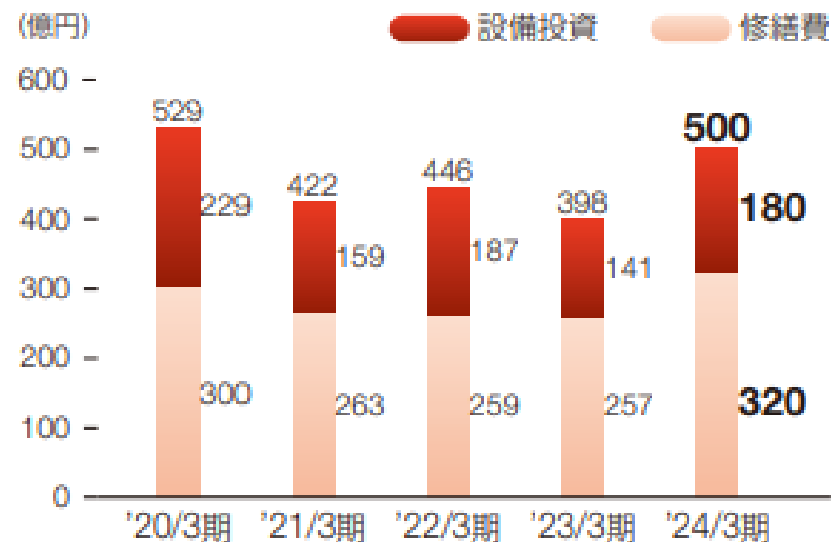
- ・ 目的：過去の事故等の教訓を風化させず、基本動作や安全対策の意味を理解し、お客さまや社員の安全のために行動できる社員の育成を実現するため
- ・ 開設年月：2011年1月
- ・ 内容：過去の事故概要等のパネル展示での学習や模擬踏切、模擬ホーム、模擬トンネル、模擬車両及び労働災害を学ぶ設備があり、実際に体感、体験することが可能
- ・ 受講人数：63,489名（2023年度末現在）
※安全創造館開設以来の人数



経営陣が受講する様子(6巡目研修)

安全にかかわる設備投資等

毎年計画的に実施しており、2023年度は、老朽設備の取替え、保安・防災対策、安定輸送対策、車両関係などへの投資として180億円、鉄道設備や車両などの維持管理のための修繕費として320億円、合計500億円を支出





九州を
元気に。

JR九州グループ統合報告書2024



JR九州グループの財務情報に加え、経営方針・事業戦略・ESG情報等の非財務情報を記載した**統合報告書**を作成・公表



JR九州 統合報告書

検索

https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/integrated_report/



決算ハイライト・株主還元



KYUSHU RAILWAY COMPANY

2025年3月期第3四半期連結決算ハイライト



- 保有物件の売却の減はあったものの、鉄道旅客運輸収入の回復、既存施設が好調に推移したこと、前期開業物件の平年度化などにより、営業収益は対前年増収、営業利益は対前年増益
- ドラッグイレブン株式の譲渡益の減などにより親会社株主に帰属する四半期純利益は対前年減益

(単位：億円)

	2024年3月期 3Q累計実績	2025年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	2,929	3,219	289	109.9%
営業利益	431	496	65	115.1%
経常利益	448	499	51	111.5%
特別損益	67	4	△ 62	6.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	407	373	△ 33	91.8%
EBITDA ^(※)	671	770	99	114.8%

※EBITDA=営業利益+減価償却費（転貸を目的としたリース資産に係る減価償却費除く） 以下、全て同様です。

2025年3月期 通期連結業績予想ハイライト



- 従業員の待遇改善による人件費の増はあるものの、鉄道運輸収入の増や修繕費の減、前期開業物件の平年度化や開業経費剥落などにより、営業利益は増益見込み
- 連結の範囲を変更し、建設セグメントとビジネスサービスセグメントの一部の孫会社を連結化
- 中期経営計画における営業収益・営業利益・EBITDAの目標は達成見込み

(単位：億円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 通期予想	対前年		中期経営計画 目標値	対目標	
営業収益	4,204	4,411	206	104.9%	4,400	11	100.3%
営業利益	470	573	102	121.7%	570	3	100.5%
経常利益	489	567	77	115.9%	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	384	422	37	109.8%	—	—	—
EBITDA	800	940	139	117.4%	940	—	100.0%

鉄道運賃・料金改定の申請について



- 昨年11月に鉄道旅客運賃・料金の上限変更が認可された
- 鉄道事業を継続するための課題解決に向け、改定が必要と判断

背景・目的

- 高速道路網の発達や全国平均を上回る九州地区の人口減少・高齢化に加え、新しい生活様式の定着に伴うご利用のさらなる減少により、輸送需要はコロナ禍前の水準に戻らないと想定
- コロナ禍前から固定費の削減や生産性の向上に努めてきたが、昨今の電気料金や物価の高騰による経費の増加もあり、厳しい経営状況が継続する見込み
- 安全やサービスの維持向上、老朽化した車両・設備の更新や長寿命化、激甚化する災害やカーボンニュートラル等に対応する設備投資や修繕等に必要な資金を安定的に確保することが困難。また、働き手を安定的に確保すべく、待遇や職場環境の改善を図ることが急務

改定内容

実施予定日	2025年4月1日 (1996年1月以来、29年ぶりの改定)
増収額	169億円(増収率11.4%)
改定率	運賃・料金全体: 15.0% ・普通旅客運賃: 平均14.6% ・定期旅客運賃 通勤定期: 平均30.3%、通学定期: 平均16.0% ※通学定期の割引率は据え置き ・新幹線特急料金: 平均12.4% ※一部の隣接駅間等で自由席をご利用になる場合に 適用する特急料金と西九州新幹線の特急料金は据え置き

今後の取り組み

設備投資計画の主な件名	投資額
鉄道施設の長寿命化 (2024年度～2027年度)	約75億円
次世代車両の新製 (2024年度～2030年度)	約125億円
既存車両の改造 (2024年度～2030年度)	約110億円
次世代車両検査施設の整備 (2024年度～2031年度)	約480億円
チケットレスサービスの導入・拡大 (2024年度～2027年度)	約30億円



株主還元



KYUSHU RAILWAY COMPANY

株主還元方針



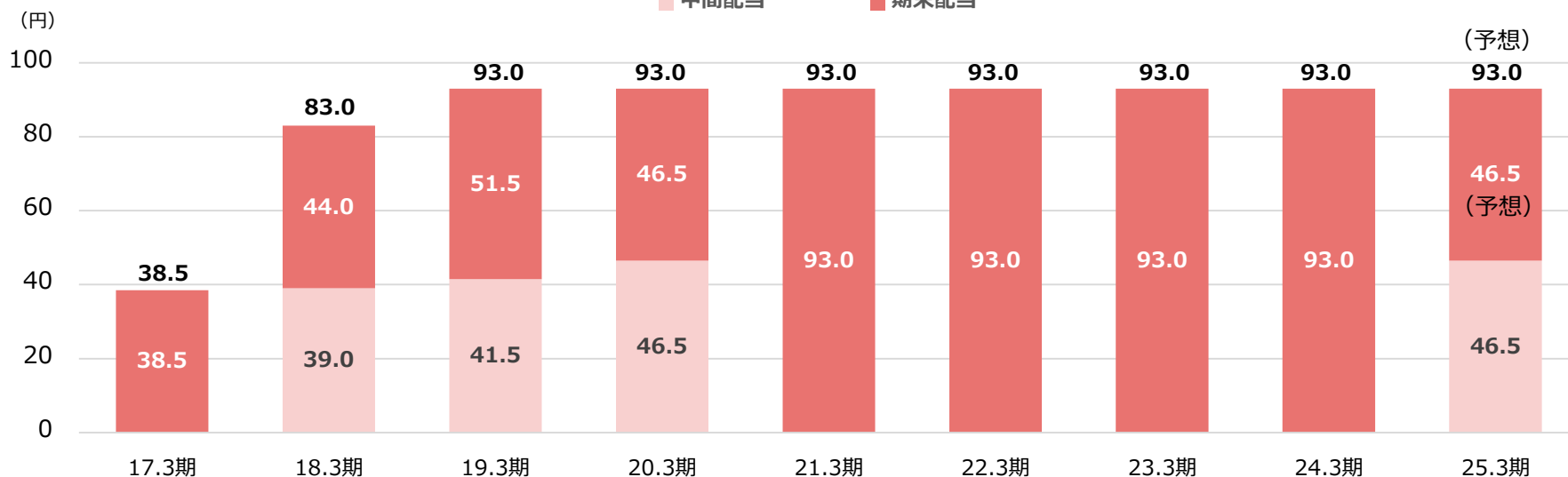
2025年3月期は**1株当たり93円**の配当予想（5年ぶりに中間配当再開）

株主還元方針

- 株主還元は長期安定的に行っていくことが重要と考え、2025年3月期まで1株当たり配当金93円を下限として、連結配当性向35%を目安に配当を行い、状況に応じて機動的に自己株式取得を行う
- 2025年3月期より中間配当を再開

（参考）1株当たり年間配当金の推移

■ 中間配当 ■ 期末配当



・コロナ禍でも安定的な配当を実施

配当性向	13.8%	26.3%	30.2%	46.9%	-	110.3%	46.9%	38.0%	34.6%
総還元性向	13.8%	26.3%	30.2%	78.6%	-	110.3%	46.9%	38.0%	34.6%

※自己株式取得 (100億円)



株主優待制度



KYUSHU RAILWAY COMPANY

株主優待制度



2種類の株主優待

※ 3月31日を基準日として株主優待制度を実施し、6月下旬に送付しています。

鉄道株主優待券

1枚につき、お一人様の運賃が1日無料（**1日乗車券タイプ**）
特急列車・新幹線にご乗車の場合は、別途特急券が必要

JR九州グループ 株主優待券

JR九州グループの各利用対象施設で
現金同様にご利用可能な**500円券**（一律5枚）

株主優待制度の拡充



- 当社株式に対する投資の魅力を更に高め、より多くの皆さまに中長期的に当社株式を所有していただくことを目的として、株主優待制度を拡充
※2025年7月1日から有効期間が開始となる次期株主優待券より拡充

拡充内容

JR九州グループ 株主優待券

- 利便性の向上や環境への配慮を目的に**電子化**
- 利用対象施設を**新規追加**

長期保有 株主優待制度

- 継続保有期間を3年から**2年に短縮**し対象範囲を拡大

株主優待制度（鉄道株主優待券）



- お一人様1日限り、JR九州管内の快速・普通列車に乗り放題
（日田彦山線BRTもご乗車いただけます）
- 別途、特急券等をご購入いただければ、特急列車・新幹線、D&S列車にもご乗車いただけます。
- 鉄道株主優待券と併用する特急券は、券売機やインターネット予約でも購入いただけます。

<ご利用の際の運賃・料金のイメージ>

博多→鹿児島・指宿温泉へ

（大人お一人さまで九州新幹線自由席、特急「指宿のたまて箱」指定席、片道利用の場合）

通常料金：12,440円（運賃：6,160円、新幹線自由席：4,500円、特急指定席1,780円）

優待料金：6,280円（運賃：0円、新幹線自由席：4,500円、特急指定席1,780円）



株主優待制度（JR九州グループ株主優待券）



2025年7月1日から拡充します！

●JR九州グループ株主優待券の電子化

電子化に伴い、お手持ちのスマートフォン等でご利用いただけます。
また1円単位でご利用いただけます。

（申請いただければ、従来通り紙での使用も可能。紙の場合は、従来と同様にお会計時にお釣りの返金はありません）

<ご利用イメージ>

①二次元コードを読み取り、JR九州グループ株主優待券ページをお気に入り登録ください。

②利用対象施設にて、JR九州グループ株主優待券ページを開き、店舗設置の二次元コードを読み取り、お支払金額をご入力の上ご提示ください。



株主優待制度（JR九州グループ株主優待券）



2025年7月1日から拡充します！

●JR九州グループ株主優待券の利用対象施設を新規追加

※JR九州リテール株式会社が運営する九州のお土産セレクトショップ

「銘品蔵」全店舗とJR九州フードサービス株式会社が関西地区で運営する「こめらく」が新規追加となります。



博多銘品蔵 博多口店



こめらく 贅沢な、お茶漬け日和。
阪急西宮ガーデンズ店

株主優待制度（長期保有株主優待制度）



2025年7月1日から拡充します！

- 長期保有株主優待制度の内容を拡充し継続保有期間を2年に短縮

ご優待内容

「鉄道株主優待券」と
「JR九州グループ株主優待券」を追加で発行

発行基準

毎年3月31日を基準日として、**500株以上**を保有し、かつ
100株でも継続して**2年以上**保有

所有株式数	鉄道株主 優待券	長期保有 株主優待	JR九州グループ 株主優待券	長期保有 株主優待
100株～500株未満	100株毎に 1 枚	—	一律2,500円分	—
500株～1,000株未満	100株毎に 1 枚	1 枚追加	一律2,500円分	1,000円分追加
1,000株～10,000株未満	10枚 + 1,000株超過分 200株毎に 1 枚	2 枚追加		2,000円分追加
10,000株～20,000株未満	55枚 + 10,000株超過分 300株毎に 1 枚			
20,000株以上	100枚			

例) 2025年3月31日時点での所有株式数が500株以上であれば、
直前2年間の保有株式数が500株未満であっても長期保有株主優待の対象となります。



当社グループはあるべき姿として掲げる

「安全とサービスを基盤として九州、日本、そしてアジアの元気をつくる企業グループ」の実現に向けて、社員一丸となって取り組んでいます。

加速度的に変化する社会の中で、あるべき姿の実現に向けて、事業構造改革を完遂させるとともに、グループの未来をつくる「人、モノ、新技術」への投資を積極果敢に行うことで、今後の持続的な成長につなげてまいりますので、ご期待ください。

本日のまとめ



JR九州について

九州内を中心に、鉄道事業のみならず不動産、流通・外食事業等さまざまな分野で地域とともに「**価値**」を創出してきた企業グループ

JR九州の 経営戦略

「あるべき姿」の実現のため、2030年長期ビジョンを掲げ
安全・安心なモビリティサービスの提供と地域の特性を活かした
まちづくりを通じて、九州の持続的な発展に貢献する

決算ハイライト & 株主還元

株主還元を経営上重要な施策と位置づけ、
長期安定的な還元を目指す
2025年度3月期は1株当たり年間93円の配当予想
株主優待は2種類（長期保有株主優遇制度あり）

株主さま向け限定イベントの開催



株主さまに当社事業への理解を深めていただくべく、各種イベントを開催

株式上場7周年記念キャンペーン

- 株主の皆さまへ日頃の感謝を込めて、イベント等を開催



JR九州社長によるトークショー＆
「SL人吉」「A列車で行こう」貸切ツアーの様子

熊本総合車両所見学ツアー

- 熊本総合車両所にて新幹線の点検行程等を見学



九州外で開催のイベント

- 2月22日に関東地区（赤坂うまや）にて写真家村上悠太氏をお招きしてトークショーを開催

株主さま向けメールマガジンのご案内



- 当社の株主さま向けに月2回程度、IR情報や株主さま限定イベント、アンケート等の情報をお届けいたします。

[🏠](#) > [企業・IR・ESG・採用](#) > [IR情報](#) > [IRライブラリ](#) > [個人投資家向け資料](#) > [メールマガジン](#)

JR九州株主さま向けメールマガジン登録のご案内

JR九州株主さま向けメールマガジンは、当社の株主の皆さまへの情報提供サービスです。以下のバナーをクリックして株主さまの情報をご登録いただきますと、メールで当社の企業情報やキャンペーン情報をお届けします。

※当社の株主さま限定のサービスとなります。

新規登録（登録料・年会費はありません） >

ご登録はこちら



※本メールマガジンは、トライコーン株式会社のメール配信ASPサービス「クライゼル」を採用しており、申込受付フォームは「クライゼル」のサイトとなりますので予めご了承ください。



質疑応答



KYUSHU RAILWAY COMPANY



Q

船舶事業の撤退による
業績への影響は
どの程度ですか？



JR九州高速船株式会社の船舶事業撤退について



- 2024年12月23日 JR九州取締役会において事業撤退の意思決定
- 2025年2月28日に廃止の届出を提出予定であり、捜査の対応等が完了次第、JR九州高速船株式会社は清算予定。業績に与える影響は軽微。

事業撤退の理由

- 船体のハード対策について、船体リペアプランが完成し、改めて専門家の意見を聞いたところ、「溶接構造を見直すことにより船体の浸水の可能性は大幅に低減できる」、「航行する海域や船の特性から、溶接部の金属疲労によるクラック発生は避けることはできない」、との意見であった。
- 輸送機関として運航を担う以上、安全に対して十分な確信を持てることが必要だと考えているが、船体へのき裂発生リスクを完全に払拭できず、運航再開に向けた確実な安全が担保できないため、当社としては、運航再開を断念せざるをえないと判断した。
- 仮に再開しても、安全を確保するために、運航条件を厳しく見直す必要があり、その場合、就航率が大幅に低下し、突発的な運休が増え、お客さまへ更なるご迷惑をおかけする。週1回の定期運休、定期ドックを考慮すると年間運航日数は365日中約7割程度となり、定期航路としての役割も低下する。
⇒ 運航再開後営業赤字の継続が想定され、事業継続性が見出せないと判断。
- 業績に与える影響は軽微



Q TSMCの第一工場が稼働した
熊本県菊陽町でJR九州は
今後どのような取り組みを
考えていますか。



豊かなまちづくりモデルの創造 | 豊肥本線エリアの概況



- 半導体企業の集積により、交流・沿線人口の増加が見込まれる。TSMC第1工場は12月稼働開始
- 2029年春以降設置予定の豊肥本線 新駅～原水駅間を対象としたまちづくりの検討に取り組む

(仮称) 原水駅周辺土地区画整理事業

- 当社を含むコンソーシアム（代表企業：三井不動産株式会社）が事業認可までの要件整理を担当する事業検討パートナーに選定。菊陽町が描く将来ビジョンの具体化を検討。

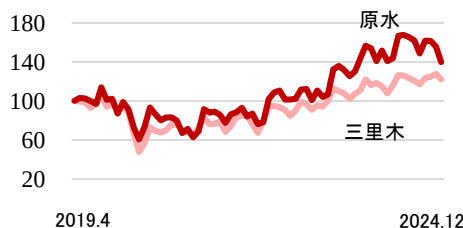


委託期間	2026年3月31日まで
対象エリア	新駅～原水駅間の約70ha
その他	今後、事業認可後の土地開発等を担当する事業推進パートナーの公募が行われる予定(時期未定)

新駅 三里木駅～原水駅間



乗車人員推移



※2019年4月の乗車人員 = 100として指数化

TSMC熊本工場（第1工場）

所在地 : 熊本県菊陽町
稼働時期 : 2024年12月～
その他 : 第2工場は第1工場周辺にて2025年3月までに着工予定。2027年末までに稼働予定。



画像 ©2024 TerraMetrics, Airbus, Google、地図データ©2024 Google



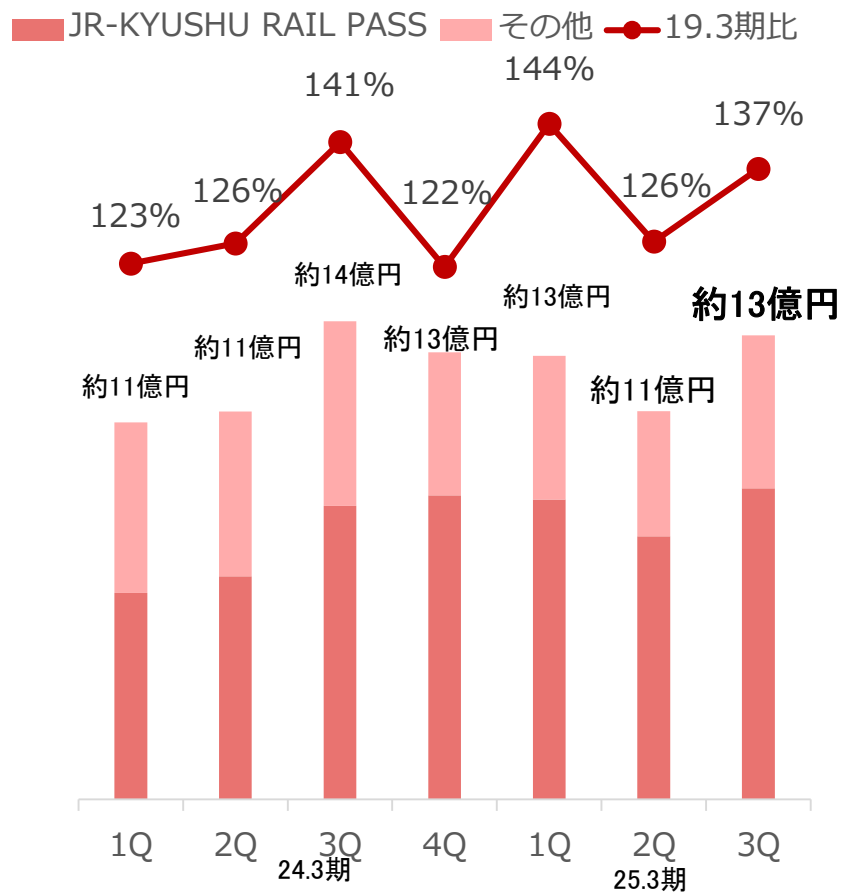
Q インバウンドが業績に与える影響を教えてください。



インバウンドの状況（鉄道事業）

- 25.3期3Qのインバウンド収入は、前期3Qとほぼ同水準で推移
- 2025年4月より、JR-KYUSHU RAIL PASSの価格改定を実施予定

インバウンド収入（概算）の推移



鉄道旅客
運輸収入
に占める
割合

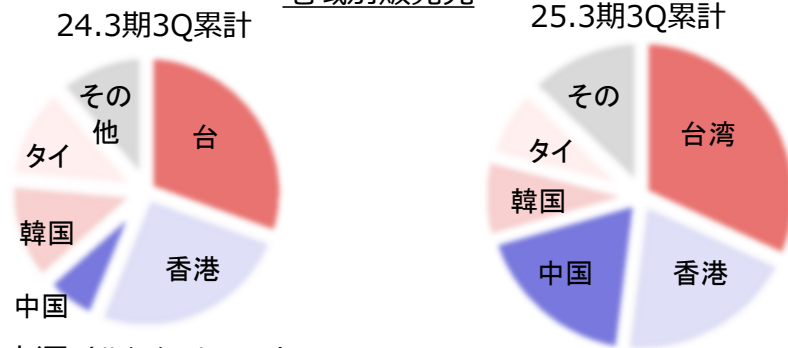
約3.3% 約3.2% 約3.7% 約3.6% 約3.6% 約3.1% 約3.5%

JR-KYUSHU RAIL PASSの需要動向

	19.3期 3Q累計	24.3期 3Q累計	25.3期 3Q累計		
	実績	実績	実績	19.3期比	24.3期 比
販売数	17.7 万枚	18.8 万枚	20.5 万枚	116%	110%
売上	16.9 億円	23.5 億円	28.4 億円	168%	121%
※					
(参考) 単価	8,500 円	~9,300 円 10,000 円 10,100 円 12,000 円	12,000 円	141%	~9,300 円 120% 10,100 円 100%

※北部九州(3日間)の金額

地域別販売先



価格の変遷（北部九州3日間）



インバウンドの状況（ホテル事業）



- 25.3期3Qは、引き続きインバウンド比率の高いホテルが牽引し、稼働率・ADRともに伸長

【実績】

(単位：億円)

	2024年3月期 3Q累計実績	2025年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	182	242	59	132.7%
営業利益	34	58	23	169.7%
EBITDA	53	83	30	156.6%

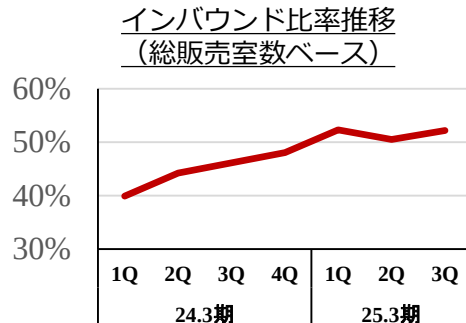
【業績予想】

(単位：億円)

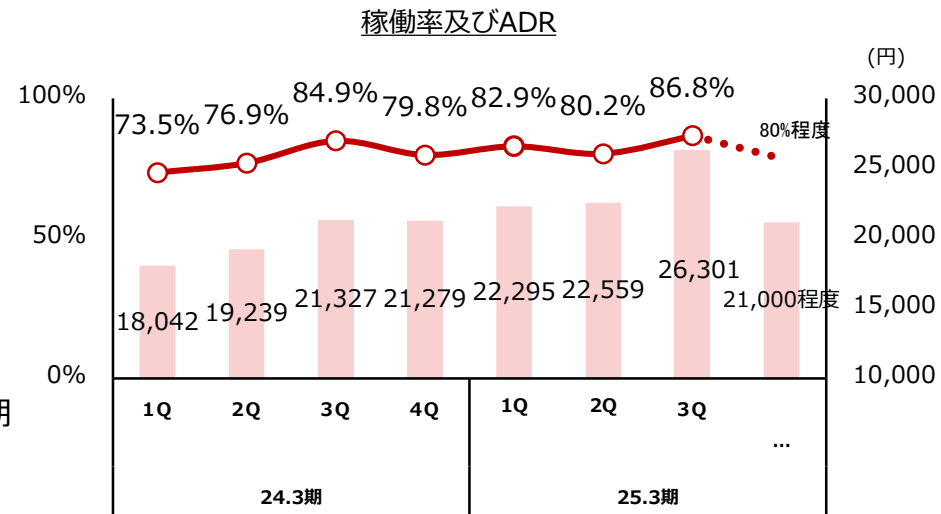
	2024年3月期 実績	2025年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	252	284	31	112.4%
営業利益	36	54	17	146.7%
EBITDA	64	87	22	134.1%

主な事業の状況

- インバウンド比率は、特にTHE BLOSSOMブランドが牽引し、50%超で推移



- 3Qの稼働率とADRはそれぞれ約87%、約26,000円と今期の上期の水準から伸長



将来の見通しに関する記述について



本資料には、JR九州グループの見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。

これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

弊社IR関連資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。
JR九州ホームページ

<https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/earnings/>



ありがとうございました

